

序論)

時に私達は、心が絶望で覆われる時があります。

今年の元旦に起こった能登半島の地震は被災地に通じる道が限られていたため、インフラなどの復旧には非常に時間がかかったと言われていています。中でも水道はいまだ断水が続いている地域があるそうです。私達も北海道地震を経験しましたが、もしこのような震災があったとき、復旧の目処が立たなかったらどのような気持ちになるでしょうか。文字通り希望が絶たれたような絶望する気持ちになると思います。

先ほどお読みしたイザヤ書44章のみことばも絶望の中にいたイスラエルの人たちに向けて語られたことばです。この預言が語られた当初、イスラエルの人たちはバビロンの囚人として捕らわれている最中でした。彼らは強制的にバビロンに移住させられ、偶像礼拝が蔓延る異教文化の中での生活を強いられ、社会的な立場は低く、経済的にも非常に困難な状況に置かれていました。しかも、イザヤなどの預言者によってこの厳しい状況はイスラエルの背きの罪ゆえであることが語られていたわけですから、神様に見捨てられ、【主】の怒りにさらされていると思えるような状況だったと思います。

そのような絶望的な状況の中でイスラエルに対して語られたのが今日のみことばです。【主】はどのようなことを語られているのでしょうか。

1) 心に留めよ (21-22 節)

44:21 ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられることがない。

44:22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」

この 21 節、22 節のみことばは以下のことを心に留めるように命じています。

- ① 【主】のしもべである事
- ② 【主】に造られた存在である事
- ③ 【主】に忘れられることがない (覚えられている) 存在である事
- ④ 【主】が背きの罪を消し去ってくださった事

## ⑤ 【主】が贖ってくださる事

贖いというのは、他の人に奪われてしまった物を買戻してくださることを指します。

## ⑥ その贖いの【主】が、「わたしに帰れ」と言われている事

つまり、【主】は、イスラエルは本来、【主】のしもべであり、【主】に造られた、【主】の所有物であること、そして、イスラエルの背きの罪によってバビロンの支配下に置かれているけども、神様はそのイスラエルの背きの罪を無いものとして消し去ってくださり、もう一度、【主】のものとしてくださる事を語っておられるのです。

そして、バビロンで神様に見捨てられたかのように感じているイスラエルに対して「あなたはわたしに忘れられることがない」と語り、だから「わたしに帰れ」と命じられているのです。

【主】は私達のことを決して忘れず、寧ろいつも心に留めて、時がきたら救い出してくださいとお方なのです。

みなさん、【主】なる神様がイスラエルの物理的な救い。つまり、バビロンからの解放とか、イスラエルへの帰還を約束する前に、イスラエルの罪を消し去るという霊的な救いについて語られている事には大きな意味があります。

なぜならば、神様の救いはまず霊的な救い、神様との関係回復から始まるからです。

みなさん、関係が壊れている人から救いの手が差し伸べられることがあるでしょうか。例えば、私がAさんのお金を盗んでしまったとして、私が経済的に困っている時、そのAさんが私を助けてくれることってあり得るでしょうか？ ありえないですよ。Aさんが、私が犯した罪を赦してくださって関係が回復しないと、決してAさんが私を助けてくれることはありません。

神様との関係も基本的には同じです。私達が神様に頼れるようになるためには、まず神様の赦しによって神様との関係が回復しなければなりません。そして、それは私達がなにか立派なことをしたから与えられるものではなく、一方的に神様からプレゼントとして与えられなければ成り立たないものなのです。

だからこそ、神様は、【主】に背いたイスラエルに対して、「わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。」(22a 節) と述べられています。

【主】は私達の背きの罪を赦し、その罪を無いものとして消し去り、神のしもべ、神の民としての立場に戻してくださるお方です。だから、私達はまず、その【主】の救いに心を留めなければならないのです。

みなさん、みなさんは自分が【主】のものであること、そして、【主】がみなさんのことをどんなときも覚えていてくださり、その罪を消し去り、神の民としての本来の姿に戻してくださること、心に留めておられるでしょうか。

## 2) 天よ、喜び歌え (23 節)

次に神様は喜びの歌を歌うように命じておられます。23 節を読みましょう。

**44:23** 天よ、喜び歌え。【主】がこれを成し遂げられたから。地の底よ、喜び叫べ。山々よ、喜びの歌声をあげよ。林と、そのすべての木々も。【主】がヤコブを贖い、イスラエルのうちに栄光を現されたからだ。

ここでは、天、地の底、山々、林、木々・・・つまり、世界中の被造物に喜びの歌を歌うように命じられています。この時はまだイスラエルの贖い、バビロン捕囚からの解放は成就していません。でも、神様は、【主】がこれからなさろうとしているイスラエルの救いは世界中の被造物が喜びの賛美を上げるべき、【主】の栄光の現れだと言われています。なぜでしょうか。それはイスラエルの救いは、世界中の救い主であるイエス・キリストによる救いにつながるからです。

みなさん、先程、神様からの助けを受けるためにはまずは神様との関係が回復していなければいけないと私はいいました。では、神様との関係を回復していない世界中の人達が神様からの助けを受けるためにはどうしたらいいでしょうか。世界中の人々を救う救い主によって、世界中の人達の罪が赦され、神様との関係が回復しなければならないのです。そして、それをしてくださったのが【主】イエス・キリストであり、そのキリストはイスラエルの民として生まれるのが神様の計画でした。

だから、その世界の救い主であるキリストの誕生に繋がるイスラエルの救いは、世界中の被造物が賛美するべき、神様の栄光の現れでした。

みなさん、聖書に書かれている出エジプトの出来事とか、バビロン捕囚からの解放とか、そういったイスラエルに対してなされた救いの出来事は、私達と無関係なものではないのです。寧ろ、そういった出来事があったからこそ、私達に救い主イエス・キリストが与えられたのです。

だから、私達も聖書を通して、このような救いの出来事を見る時、心から【主】を賛美し、喜びの歌を歌いましょう。

### 3) どのように贖いを成就されるか (24-28 節)

では、そのように私達の救いにもつながるイスラエルの贖いはどのようになされるのでしょうか。24 節から 28 節には神様がどのようにイスラエルの贖いをなさるのかが書かれています。まずは 24 節を読みましょう。

#### ① 創造主であることの宣言 (24 節)

44:24 あなたを贖い、あなたを母の胎内で形造った方、【主】はこう言われる。「わたしは万物を造った【主】である。わたしはひとりで天を延べ広げ、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。

ここでは、イスラエルを救う【主】がどのようなお方かが宣言されています。イスラエルを形造り、イスラエルを救われる神様は、イスラエルだけの創造主でしょうか？ 違います。この神様は、世界中をお造りになった世界の創造主でもあります。だから、イスラエルの贖いは、世界中をお造りになった世界の創造主なる神様の権威によってなされるのです。

#### ② 【主】の計画だけを成就させる (25-26a 節)

次に 25-26 節の前半を読みましょう。

44:25 わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。

44:26a 主のしもべのことばを成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。

ここでは、バビロンに蔓延<sup>はびこ</sup>る占い師や呪術師、またはバビロンの知恵者たちのしるしやことばを打ち壊し無意味なものとし、その上で、【主】のしもべ（預言者）のことばだけが成就し、【主】の計画だけが成し遂げられる事 (26 節) が語られています。

つまり、占いや呪術、この世の知恵によって語る者の言葉は信じるに値しないけども、【主】のことば、【主】のご計画だけが信じるに値するものであると【主】はいわれているのです。

人は様々な言葉を人生のガイドラインにします。例えば異教の教えであったり、この世の著名な人たちや成功者たちのことばであったり、哲学者のことばであったり、最近ではAIのことばを頼りにしている人も結構します。

みなさん、AIってわかりますか？AIとは人工知能のことで最近ではAIにお願いすると絵を書いてくれたり、作曲をしてくれたり、ブログの原稿を作ってくれたり、テストの回答を教えてくれたり、市場調査をしてくれたりします。結構、便利になっています。

私も最近結構AIを使って、説教原稿の誤字脱字をチェックしたり、みなさんにお配りするレジメのたたき台を作ってもらったり、スペイン語に翻訳してもらったり、中高生向けの質問を作ってもらったりしています。でも、私は決してAIを完全に信頼したりしません。なぜならばAIは嘘を言うことが在るからです。みなさん、コンピュータだって間違ったり嘘をついたりするのですよ？なぜだかわかりますか？AIやコンピュータを作っている人間は不完全なものであり、AIやコンピュータの情報の元となっている人間のことばには、嘘や過ちが含まれているからです。

みなさん、だからこの世のことばは参考にすることはできるかもしれませんが、信頼することはできないのです。でも、神様のことばは違います。なぜならば、神様のことばは必ず実現するからです。

### ③ 具体的な【主】の計画（26b-28節）

神様は26節の後半から28節にかけてどのようにイスラエルを贖いだすのか。そのご計画を語られました。

**44:26b** エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。

**44:27** 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。

**44:28** キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。』

ここには、エルサレムやユダの町々が再建され、人が住むようになり、そして、エルサレム神殿も再建されることが書かれています。

では、どのようにしてバビロンの囚人として捕らわれているイスラエルの人たちが解放されて、エルサレムなどの再建を成し遂げることができるのでしょうか。それはペルシャの王キュロス王によってです。(絵を表示)。

少し歴史の話になりますが、元々このキュロス王はメディア王国に従属するアンシャンという小さな国の王様に過ぎませんでした。しかし、主権国であるメディアでクーデターが起こった時に、彼はそのメディア王国を倒して王になり、エジプトを除く古代オリエントの諸国を統一して大帝国を作りました。それがペルシャ帝国です。なぜ、小さな従属国の王でしかなかったキュロスが、バビロニア帝国をも倒す大帝国の王様になることができたのでしょうか。それは小さな羊飼いであったダビデをイスラエルの王にした神様が、キュロス王に働かれたからです。しかも、この預言はキュロス王を用いてイスラエルをバビロンから解放することだけじゃなく、キュロス王がどのようにしてバビロンを攻め取るのかも預言しています。それが 27 節です。もう一度、27 節を読んでみましょう。

**44:27** 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。

淵というのは、バビロンに流れるユーフラテス川のことです。

当時、バビロンは難攻不落の城壁を持っていました。その城壁は高さ 90m、幅 24m の分厚い壁で、その周囲は 65km にも及びました。そして、その城壁に設置された見張りの塔は 250 もあり、さらにはこの城壁は地下にも 11m ほど伸びていたので、穴をほって下から侵入することもできないようになっていました。まさにバビロンの町は難攻不落の城塞都市であり、だからこそ、バビロンの王様はペルシャの王キュロスに攻められたときも、安心して 1000 人の客を招いて大宴会をしていました。

じゃあ、どのようにしてキュロス王がバビロンの町を攻め滅ぼしたかという、この町をながれるユーフラテス川の水を他の川に流れるようにして、川の水を干上がらせ、その川を通ってバビロンに侵入してこれを攻め滅ぼしたのです。7 節の神様の預言『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』というのは、まさにキュロス王がバビロンを攻め滅ぼす時にユーフラテス河を枯らした事を預言しています。

しかも、この預言は、バビロンが滅びる 150 年以上前に語られている預言です。

だからこそ、この預言を実際に 150 年以上前イザヤが語ったことを疑う人たちがいます。でも、イザヤが語ったということは聖書に語られていますけど、イザヤが騙っていないなんてことは証拠がないのです。なぜ、150 年前にキュロス王のことや、川が干上がってバビロンが滅びるようなことが語れたのでしょうか。それは必ず御言葉を実現される神様がイザヤに預言を与えたからです。

この世のことば、偶像のことば、魔術や占いのことばは、信じるに値しないものですが、【主】のことばは必ず実現する。信じるべきことばなのです。

だからこそ、私達は、この聖書にかかっている【主】の御言葉を信じるのです。

## 結論)

まとめます。

皆さん、【主】は私達の罪を消し去り、私達を救い出し、ご自分の民にしてくださいのお方です。だからこそ、私達は【主】が「これらのことを心に留めよ」と言われている通り、【主】の救いを覚えなければいけません。

この世には様々な助言や霊的なことばがあります。しかし、本当に信頼に値するのは【主】の言葉だけなのです。

なぜならば、【主】のみことばだけが本当の救いを実現してくださるものだからです。

【主】は、私達を救うために、壊れた町を直し、救いの手が届くようにし、異邦人のキュロス王さえも用いて、必ずその救いを実現してくださるお方です。そして、その救いによって私達は、今日、このようにして【主】を礼拝する民にされたのです。

だからこそ、私達の周りに様々な偶像があったとしても、また、私達を惑わそうとする様々なこの世のことばがあったとしても、【主】の言葉だけを信じ、【主】のことばだけに頼り、【主】による回復を期待して歩むものとなりましょう。

最後にもう一度、21 節、22 節を読みましょう。

44:21 ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられることがない。

44:22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」

このイスラエルに対して語られたことばは、私達に対しても語られていることばではないでしょうか。